

平成三十年十一月投句

赤ペンキの印ある路草紅葉

世事一日暮れてしまひぬ翁の忌

常盤木の社の杜に冬紅葉

勝利

風にのる綿虫に意思ありやなし

真理子

薄の穂散歩の犬の影長く

一夜さに落葉あつまる駐車場

カーテンに時折影や散る紅葉

君そこに居る遺句集や冬ぬくし

本堂に満ちる念仏十夜寺

節子

釣人の影に寄り添ふ冬の鷺

由紀子

落葉掃く夫時折空見上げ

水煙の空青くして银杏散る

看取にも旅の暇や秋日和

柳川の堀の水面の石露明り

光子

あふちの寒くぐり川舟行き交へり